

道徳学習指導略案

1年1組 23名 指導者 京田 憲子

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 振り返る活動において、「見える図」を活用することは、自己の生き方についての考えをより深める手立てとして効果的であったか。
- 中心発問において、感じ方や考え方を色で表し、二人での対話活動を行うことは、子どもの思考を広げる手立てとして有効であったか。

1 主題名 大切に使う（資料名「おれたクレヨン」〈読み物－東京書籍〉）

2 ねらい

自分の身の回りの物を大切に扱おうとする態度を育てる。（1－① 思慮，節度・節制，自立）

3 展開に当たって

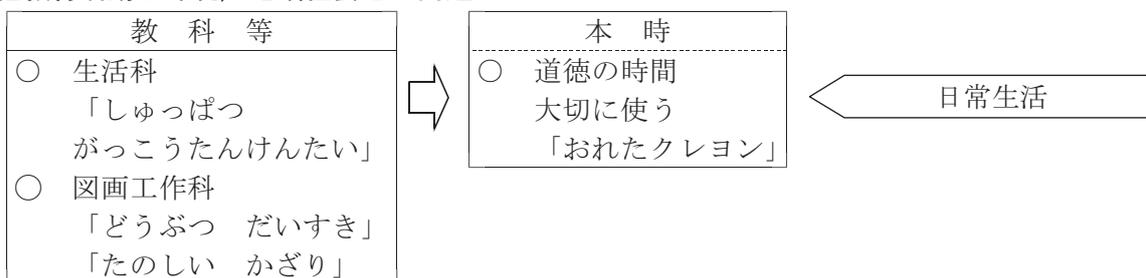
見つめる活動では、物を大切にできているときとできていないときの写真を提示することで、身の回りの物を大切に扱うことができないことがある実態に気付かせる。その後、物を大切にしたいという思いはあるものの、できないときの心情を想起することで、「みのまわりのものをたいせつにつかうには、どのようなきもちがあればよいだらう。」という共通の問題意識を練り上げることができるようにする。

問い直す活動では、まず、クレヨンで絵を描いている男の子と女の子の心情を考えさせることで、身の回りの物を使う状況は同じでも、意識をしないで粗雑に扱うことがあることに気付くことができるようにする。次に、身の回りの物を大切に扱うことの素晴らしさに気付かせるために、男の子と女の子の使っている身の回りの物の心情を比較して考えさせる。その際、身の回りの物の心情を色で表す活動を取り入れることで、自分の道徳的価値に対する感じ方や考え方を明確にできるようにする。さらに、二人での対話活動を取り入れることで、自分の考えに自信をもつとともに多様な感じ方や考え方に気付くことができるようにする。

振り返る活動では、「見える図」を使うことで、今までたくさんの物を使ってきたことに気付くことができるようにする。その後、自分の身の回りの物に思いを伝える活動を取り入れることで、今まで身の回りの物を大切にできた体験やできなかった体験、そのときの心情を想起できるようにする。

あたためる活動では、教師が長い間大切に使っている物を見せることで、物を大切に使うことの素晴らしさを実感させ、実践意欲を高めることができるようにする。

4 他教育活動や環境，地域社会との関連



5 資料について

本資料は見開き1ページの資料で、子どもが日常生活で体験をしている、絵を描いている様子の挿絵である。そのため、子どもが身近に感じることのできる資料である。

また、男の子と女の子の使っている身の回りの物も描かれている。そのため、それらの様子の違いに気付かせることで、男の子と女の子の身の回りの物の使い方の違いに気付かせることができる資料である。さらに、男の子と女の子の使っている身の回りの物の心情を比較しながら考えさせることで、使われている物の立場から物を大切に使うことの必要性を追求することのできる資料となっている。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価	
見 つ め る 活 動	5	<p>1 身の回りの物を大切にできないときの心情を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人もしている。 ・少しくらい。 ・つい。 <p>みのまわりのものをたいせつにつかうには、どのようなきもちがあればよいだろう。</p>	<p>身の回りの物を大切にできているときとできていないときの写真を提示することで、物を大切にできないときの心情を想起できるようにする。</p> <p>めあてを全員で一読することで、全員が確認することができるようにする。</p>
		<p>2 資料「おれたクレヨン」を見て話し合う。</p> <p>(1) 男の子と女の子は、どのような気持ちで絵を描いているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を描こうかな。 ・楽しいな。 ・上手に描けたよ。 <p>(2) 男の子と女の子が使っている身の回りの物は、どのような気持ちだろう。</p> <p>○ 男の子の身の回りの物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折れたら、痛いよ。 ・破かないで。 ・もう、使わないでほしい。 ・大切に使ってほしいな。 <p>○ 女の子の身の回りの物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日箱の中に戻れて、うれしい。 ・大切にしてくれて、ありがとう。 ・もっと、使ってね。 <p>(3) 物を大切に使うには、どのような気持ちがあればよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の気持ちを考える。 ・次に使うことを考える。 ・物を作った人の気持ちを考える。 	<p>◎絵を描いている挿絵，男の子や女の子の使っている身の回りの物の挿絵</p> <p>絵を描いている男の子と女の子の心情は同じであることを押さえることで、意識しないで物を粗雑に扱うことがあるということに気付くことができるようにする。その際、挿絵にある男の子と女の子の身の回りの物の様子の違いから、扱い方が違うことに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 中心発問に対する考え方を机間指導において次の視点で評価する。</p> <p>ア 身の回りの物の気持ちを中心とした考え方 イ 使う人への思いを中心とした考え方 ウ 集団・社会への思いを中心とした考え方</p> <p>使われている身の回りの物の心情をハートのワークシートに塗らせ、二人での対話活動を取り入れることで、道徳的価値に対する感じ方や考え方を明確にしたり、多様な感じ方や考え方に気付いたりすることができるようにする。</p>
問 い 直 す 活 動	27		
振 り 返 る 活 動	10	<p>3 自分の身の回りの物の使い方を振り返り、自分の使っている物に思いを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピカピカのランドセルさん、いつも荷物を運んでくれてありがとう。 ・クレヨンさん、いつも箱のお家に戻さなくて、ごめんね。次からは、お家に帰すね。 	<p>「見える図」を使うことで、今まで自分の使った身の回りの物をたくさん想起することができるようにする。その後、身の回りの物の使い方を振り返らせる。</p>
あ た た め る 活 動	3	<p>4 教師が長い間大切に使用している物を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしも、今使っている物を、大人になるまで使っていきたいな。 	<p>身近な大人である教師が、実際に長い間大切に使用している物を見せることで、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。また、実際に使っている期間を示すことで、物を大切に扱うことの素晴らしさに気付くことができるようにする。</p>